特別
14
1919
826

門 44 號 1919 卷 ~~133~~ 826
~~45 號 1980 卷 57~~

昭和十六年十月一日寄
市島謙吉

文

東京二十山人書十二幅屏

用雲林法而稍變其法味 杜陵

樹山水 雲山雨雪

雲雪失而雲山雨雪又意四林

作之因所以寫之

沈石田氏亦有朗然

經之生氣蒼蒼 依所雪見而作

久壽氏晚出來江 依氏意語所

載世所多見

法五代關仝湖山雪霽圖筆

陳震孟筠江侍郎圖 [illegible]
[illegible]之
董北苑南宗中興祖吾家遠拈一
瓣香
高尚書大來法
文待詔檀溪玉貫問作雨景尤
為清妙也 [illegible]
雨雪晚泊 仿陳道復法
清秋方和田家

朱船亭九[illegible]山[illegible]
古法 [illegible]
[illegible]十幅 杜濬畫
[illegible]仙[illegible]辭 [illegible]
[illegible]石[illegible]山中[illegible]雲
上[illegible]邪仙元[illegible]人[illegible]徒[illegible]長生文
題山水圖
此儒邪仙 [illegible]仙煙海雲山四年 [illegible]歸來
[illegible]近與平[illegible]市[illegible]
五適少人計也 [illegible]晚[illegible]
書法漢[illegible]山水[illegible]

ふらく来ラニ寺遠ニテ移ろへば
かつハ（ナマナカ、却テ二所交リ云）いとこし（松川ニシテ）朝戸出（アサト）
（アサリヤマ出ル）戸出外出ハ非ナリトノ説アリ
いた「甚」イトニ是彼　まちどそ木（イナナカ云）にどツシヨリぬくふ
まきつの数々頻リ頻リノ云　像ろ子　戀（コヒ）しき（クノトシキ）
まされハねらまく惜しき[illegible]さ（ニシニノ古語）に唱ふだ合みてれ（カも）
まちは[illegible]きたる梅のもちろを君ふと夜寝もねずくに（イカナキ）
あさけりの[illegible]　手弱の新居
あくとよまろ[illegible]刈して　やほだてを種種の新兵の勝ろふと一の経　新居
おふ[illegible]
なのをみをきをほるるなこの[illegible]たくみ[illegible]の[illegible]（出でルバイフト）
やほ、弥帆、弥ハ全ナル意、本船ニ於テ云々、或云[illegible]船ニテ前「[illegible]」
やほ、大船ノ舳ニ張ル帆、頭[illegible]
やほ、八百、一百ヨリ八ツ合セタル数八百ニ数ノ甚ダ多キ[illegible]（ヤホ）弥百ノ義）「八百萬」
だて　接尾「立」他語ト熟シテ名詞トナリ其風スル意ヲ示ス語「カレエガ立（カラクイガテ）」
「男ダテ」「伊達ダテ」
たて　接尾「立」動詞ト熟シテ名詞トナリ為ニテ新ナル意ヲ示ス語「煮タテ」「炊キタテ」
「切リタテ」「[illegible]タテ」
たて名「立」音ト押シ立ツル趣意〇たて名「[illegible]」葉席ニ作ル俵ノ如キモノ
茶綿ナド納ルニ用井ル

丁卯稿

平安　松窗道人　著

高岡寓居元日

此歳除夜立春元旦快晴　男　松由　録
終日北地所多難得

昨夜春回驪谷東滿城麗日旺光風百年生事
皆行旅萬國昇平同歳功梅早江南郷信遠雪
封越後客途窮音華六十今初遍仍試青毫
勧子童

春寒

開歳日為雪一爐護病春同幽蟄閑寒與
老年加舊國桃應發客亭柳未芽戸庭猶
怯冷争企百城遐

桃紅宿雨洗意題

宿雨初收桃柳新煙花日上鳥嚶呻松門未掃
花狼藉山客眠高太古春

蘭菊梅竹松桂各題六首

山中高士卧出夢碧雲裏月露結素蘭
清韻堪依倚　右蘭

疇昔湛園主能生瀟湘雲雪得夜來雨
零丁龍鳳文　右竹

老根游龍精滿枝散春星非因補之葉
孰能擅雪生　右梅

佳菊數晚榮芳意襲人衿吾採盈我把
能使酒味深　右菊

青松有出塵勁拔上雲際天風吹高枝
春濤聲樓樓　右松

夜靜桂花落山深春月空驚起山鳥聲
數聲春洞中　右桂

山川風月本無常主閑看便是主人
村路出迴樹整齊數間茅屋水東西主人未厭古
居淺坐把山川作我極

題梅

羅浮山下古梅村姑射神人冰雪魂春色朦朧
殘夢醒洛煙素月白黃昏

題竹

出筆奄映月光淺淺水空明曉色襲好是輞川
真意味一霄清夢繞琅玕

題菊

過飲但知酒害身清疑須信菊延生陶家賞味應重陽米實配來長壽命

題進縣令蓬面影梅　蓬士治ナリ書畫ヲ煙行書家

玉破名花雪剥幹滿天烟月仍春寒補之獨擅寫生妙輸却扇頭一柄看

梅陳道復雪景詩畫

文家分子白陽名簡淡孤高似雪清興來寫得佳詩句薄暮江心舟自橫

題文飛雲山圖上

雲帶苔衣一摺山〻林邊石蘭斑。唐山千古巧聯句今見文家筆鬱中

雨後晴

雨後清溪雲外山〻前亭子　葉間城中車馬來何晚如使樂人縱往還

山路風雨圖

雲飛山驟氣鳴雷滿耳風衝雨來老林如龍石似席電光求路一人回

五月十六日飲古杉田家

元雨凱風櫻未闌陰森林屋書猶寒笙中應唱村田樂隨意水田夏木看

錦荷枝

園畦蔓延綴黄花結子爾年絳弄錦接懷長得故園暢好物苦辰月咄出甘紅芽

初秋彭津客中葉　温泛舟瀉湖邀飲

日落湖流潤輕舟任所之之明棲霧海澤陽治
龍祠華網斫鮮鱗洸瀣酌醇醪吾情憩似水心
識者君移

宿寶田氏宅和正孟一見贈

閒堂秉燭夜深深清談風流似遠林自有青山
緣未了松杉影裏聽泉音

鉛山讀書閣

清谿曲曲路斜斜小小亭臺幾淺沙一卷清平山師
靜聽招不紀讀書家

藝志詩并序

藝志者謂藝之所志鄉也惟文人之學博綜
衆藝非每事學之而後能綜之也要內具靈
妙之神韻淺諳辭章筆墨之間適而無不適
生前見後不得睹已眩人伎也至此始可言藝
也豈翅助風花雪月之場而已哉然一伎尚多
家數矧衆藝分法方各殊且天稟之異猶人之
身體顏貌不同其志之所鄉亦復尔尔予每有
省于藝述以韻語詩凡若干首集名藝志錄
遺筐笥云

法書詩

法書從古貴藏鋒心正字法執殿中屋漏

錐沙消息遠直今學得始從容

有筆法訣今不錄

有學書詩

學書年過感二三十載追平正六十今辰始險絶更還平正是來生（生押去声）

孫虔禮云初學分布俱求平整既得平整務追險絶既能險絶復歸平正

宗畫詩

宗法一除摩詰王傳從董巨至倪黃沈文

玄宰接衣鉢清韻無聲是家法

（無聲詩是有声画）

墨蘭詩

踈花瘦葉蘚根荒岸石依前伴古香幾合

埋春三十載等閑風送到君傍

清人文命時重蘭以瘦筆枯墨運以中鋒遒勁拔俗別具神韻余屢求見其真私衾我意邀其意自作系以小詩

墨花詩

年來吮筆搖煙霞甘作南宗山水家鋒與又移搖蝶夢溪將老墨逐苔花

寫生詩

寫生先宜別昏朝氣象麥暗紈自標兒女只論軟紅色世人妄評雪中蕉

清宗詩

彭澤真高興古比家風第一右丞相詩襄陽蘇柳皆同轍百世清流是我師

古宗陶詩唐師王孟韋柳元明有清詩一派
皆可法也

飜論詩

文章傳道信堪尊詩視文章迥出塵別有
清音絶論說不須區區歐驚人
本詩古文章於道不為尊詩在文章又一
塵偶有好音來過耳不須抵死要驚人

解嘲

痴拙性所致自作亦自喜雖乏高人知幸彼俗
士棄誇馬入城來欲去勿遲凝滿城多少人
誰復識此意

右藝志詩計共十首

丁卯除夕 西浦寓舍作

悠悠煙水望西城到處逢迎且滯程禪苑枕山
守窮臘深堂坐雪送爽更異鄉奇遇新元第同
社清流舊主盟歲華年年殊土例從他游藝了
餘生

丁卯稿終

戊辰稿

戊辰元日

送舊迎新是復遷白頭忘老喜春還一周甲子
太平日三代人文全盛年詩寫興情皆每貫錄筆
從痴拙是家傳弄生六帙已過了餘興任他歲
月延

三代稿譜
三朝結凝

此十卯詩稿　文化四年　道人六十歳ナリ

戊辰　五年　八六十一歳　文化十三年

而子　五月十三日　投於越後出雲崎　葬

日所　禅宗　玄奇法名　化雲　享年　六十九

中井　杜激　号　松窠　京師人（名家畫譜）

中村　経年　一名　保定　号　杜亭　金水又　積水　道人

通称　保八　郎　幕府　家人　郡田　郡代　信濃

長野　訪ナリ　金川　門ニ入リ　学　科　ナリ　白ニ　人ニ　学ブ　述

文久二戌年　十二月十　歳ニ　没ス　享年　六十六　牛込　板

所　法奇　三峯　墓　松ノ下　浅草　稲荷　墓　長

海之　若　濤　合　戦　乱　神　祇　怪　神　祇　出　神　祇

而　退　不　若　困　不　及　乱

苟　過　之　則　失　言　謗　行　不　若　不　飲　也

右　二　三　年　元　曰　永　字　先　生　餞

終　本　腐　士　廣　岳　行　徳　氏　之　語

来　坂　論　書　曰　書　必　有　神　氣　骨　肉　血

五　者　闕　一　不　為　成　書　也　又　曰　苟　非　其　人

要　工　不　貴　也（品法止三至　不論或隙　法　在面　静　居）

此　若　ニ　紙　ニ　ツ　ノ　乃　又　ハ　ル　ル　ル

す　者　ス　ス　ル　ル　ル　ル　ル　ル　ル　ル　ル　ル

万　事　の　長　ル　ル　ル　ル　ル　ル　ル　ル　ル　ル　結

さかさめ利をは殊人の手を知おもふた
まへ何をそも行なは
悟りて此種の名に成は殊や茶の有須
歎く此業の信のなく世間乃茶のためを
徒に衰へしと云ふとも茶業の振ふ中にも無し
宇治にてよく勉むる人々も此を為し尽し
をいかにて一層振ふ様出して茶と
め此御代の誉と為りて席上の歡を
錢を拝みて乃ち茶むるに仁也紫の知や
御すも為して強敵とくれ今高声之御慎
喜をあらそふべし
くるくると宇治乃茶摘てかの茶の香の袖の袂のあらたなり

佳作三篇請評

宇治人はつめ蒔木の色よりもよきのあらはれよ ○ 蝶齋
かくよりあつき茶世

茶
宇治山のこ此茶乃香も寿きしいしぬ ○ 鶯雨 談市
あしもおのかりける

茶
たな外にむすびてよ程ものを以ひけむよもちの ○ 東雄 桜氏 水存
こ之読み茶の

茶
山外も宇治乃茶摘みて木の茶を ○ 豊宇 吉田氏
新茶人をしらしき

回
まへしき茶の芽しなくく谷の陽のわきて ○ 嘉慶 齋藤氏
朝しき茶店せきかしや

むかし亀鶴あまたかひおきてよみ侍ける　河辺一也　清三云

[illegible]

たふ（代）なんぢ汝ニ同シナレ、イマシ、「汝ヲト吾ヲ人ゾ離サカナル」「時鳥汝カ啼ク里ノ」

（副）勿「動作ヲ禁シ止ムル語用法ニ称アリ動詞ノ下ニ用井ルモノ「人ヲ忘ルナ」「色ニ出ツトナ」「我ヲ恨ムナ」「斯クト思フナ」又モトイフ語ト共ニ他ノ動詞ヲ狭ミテ用井ルモノ「ナ忘レソ」「ナ恨ミソ」「ナ思ヒソ」

[illegible]

いましば　セシばナリ

あまり　今宵ナリ

まぐて　様々ニ一同ナリ、

ことく　エマヤカナリ

さて　サウジテ、ソレデ、サヤウニテトモ

がつは　是彼ニツ定ルニ云、

ましして　ナホサラナリ

いみじく　ハナハダナリ

いとま　手ろきナリ

いそで　何トゾナリ

いさら井　井戸ナリ

いもゐ　精進テウサイ也

いきすだま　生霊ナリ

いさむ　[illegible]

いさり　夜漁取ル也

あさり　海人ノ朝漁

いどむ　アラソウナリ

いあせ　イヤラウナリ

られひきこえん　人ニ愛事スル縁ニユカナリ

ねこふふ　取リハカラフ

のたまはせ　仰セナレ

まめやかに　シジツナリ

あめげ　[illegible]

ゆきまばし　[illegible]ナリ

[illegible]　遠キナリ

まやま　近キ山也

あのみし　[illegible]ナリ

ゐや　カヤブキ家

とろこびき　[illegible]

とこしへ　常ニト云フ事ナリ

い むかし亀菊ありけりそよぬくさこれとこのめてきすへてなむ の酒泉一也 法云

い みちすゑはみなせのおちる泡よりもあだなるものかのこゑひきの友 の大法一森

おもふ我なき便ぬれてし釜の湯のたきりたるの和歌 の

諸々釜の湯釜たぎりて峯にこゑかり香り宿 続々燕ノ句

茶

昔ならふ…亭山荘 …ホト人 の麻呂

おほあり ユトリ外遺ヒタルヲ云

ひろ口 サン口ナリ

ひろ親 セン庭ナリ

ひろせ 過ヒ年ナリ

さうころ サキゾメテナリ

よく ヤセンナリ

いましは セン口ナリ

あきり 吟宵ナリ

まへて 悠々ト一向ナリ、

ちとく ユマヤカナリ

さて サラバニテ ソレデ、サヤウニテトモ

かつは 起彼ヲ二ツ交ルニ云、

ましもて ますサラナリ

いみじく イカハダメナリ

ひとまつ 手ろキナリ

いぞ 何トゾナリ

いとあきぐ イトマナキナリ

いとかし(こし) ヲソレツオホキ也

いまのめ アカツキナリ

いられこころ 心ノイラウニト

いぶせき シキ シケレ ク （心晴レズ気ガ塞ル也 オホツカナキ也 カナシキサビシキナリ 鬱）

いさらゐ 水ノサシアル 井戸ナリ

いもゐ 精進ノウサイ也

いきすだま 生霊ナリ

いさむ 作ノナセハ生レ 作ナリ

いさり 夜魚取ル也

あさり 海人ノ朝魚

いどむ ヨカルナリ アラソウナリ

いあせ イヤヲウナリ

れひきこえん 人ニ物事ヲ頼ムナリ

物こふ 取リハカラウ

のたまはせ 仰セアレ

とぶらふ 見舞也

とくぐ 早クト 又スナハチニモ

おこたり 不沙汰也

まかりかし 暇乞也

こころぐるしく 気毒也

まめやか ニシンジツナリ

あめげ 気乱也

やまばし ユキリキナリ

ふかけさ 遠カナリ

はやま 近キ山也

あのみし カスカニ ミエシナリ

ふや カヤブキ家

どろこぎ 家リ

とにかく 常ニト云フ事ナリ

とあこらし　永々未ヨリ
きしね　悲歌
ふかけあり　年年畑
よくだち　夜ノフケル
そそかぐた　山伏
ほひの丹ち　迷途旅
つうちま　新やきを年年ヨリ
ほまま　物ノハシ
やどとるきう　ヤドヲツフ
まそで　而袖也者袖
こそたう　年年ヨリ
ちぼのはな　和奇ヨリ
ちなの風　祭ノ風儀也
こうぶま　コリスヲ云フ
さこしあぐら　サヲシガウ

あがりたるよ　苦ヲ云フ
あてある人　ムツカシキ人
うさるひ　
くたりやら　
らたるよ　ヨリスヒヨリ
きつふもめ　狐ニケモル
やつうち　ヨシレ也
いきあふ　
おをあぐう　
ねよちげ　
まるる　
あびき　
けしう　アヤシ心也
けじめ　
けさやら　

けらあく　心ヤリ也
あしう　
みなてう　
ぐう　
ぬ高ハ　水ヲ云フ
たのらぐ　
ねーまづき　ツリヒヨリ
かのたれとき　アヤツキヤリ
ほやく　
ちうき　物思ヒ心也
あふめく　アワレヒヒヨリ
をこしき　男ラシキヤリ
ちらもさ　
まちうた　ヒヨキ方也
遠キ方

おいとき　
あごと　
ちだく　
ちきび　
ちうこと　カゲゴト也
いこう　
もしる　
ちぎうて　
ひちある　
ほくちみ　
ちうく　
あし　
ぐちむ　
をぬしま　
ちうどき

神ホトケ
細ヤカニ引ク声ノコト
うまくアツマリ　ムレサマ也
レマザヤリ
カゲゴト也　蔭言
女ノモト也
エビガ大ボ　ムレ
ちぎガタリヤリ
ヒメシスルヤリ
ムスシ笑也
フルヘルヤリ
ベキト云ヤリ
ニギヤリ
ラレカンヤリ
ヲキニハ　ザレシヤリ

こちうだ　エンセヤ　新あし（遊ビ戯ナレ酔ヒ意）
そうや　リヨウヒヤリ　恋ぼけ　惚ガケ
をあぐた　
ちちよう　
かぐいろ　
○いと　名一般（愛シノ義）　小児ノ称（童義）
副（最）（痛ノ意）　至リテ甚シ、最モ、極メテ
いみじし　（多クハ形容詞ニ副フ）「いと易シ」「いと久シ」「いと苦シ」
形ニ一齋ニ慎ムベシ　アリ
二甚シ、勝レタリ（善悪ニ通ジテ）
「イトシキ婿ドモヲ捧ケ奉ル」
最ソミシト見奉リテ」
イトビヒヲ雲降ル夜」
稀童トテイトビキ盗人ヲ将軍」

○いつうし　ミキシキシ
厳イカツシ　形ニ厳シ　厳シノ貴シ

いたく　副（甚シノ副詞法）ハナハダシ　ヤキヤリ、
イタメラ、「年いたく老いぬ」

ゆくゝあく「不意」ゆくゝあし／物ニモアラジカ」ゆくりもなく、ゆくりあたゝ
ニ見エ」思ヒカケズ、不意ナリ、卒爾ナリ、

あたまいたし（形二）（傍痛）「儀観ニ笑止ナリ、キノドクナリ」ニガシ、心ヤリテ
人ヲ思ヒ遣ルニヅカメハヲラ〳〵キ丁タヤリ、

かたくあ　形一　痴ナリ、愚鈍ナリ、「愚」ヲリテ假初ノ確トキガリタル
假リ丈ノ苟且

かたしけあし（形二）（忝）（辱）（難シ）気ナレノ意
一長シ、恐レ多シ、勿體ナシ、「殿ノ帝氣色ノ」ニヤヤシテ、カタシケ
ナリニオハシマスカナ」宮ノ上ノカタレケナ、アハレ恩シリシモ、
二恵ヲ受ケテ嬉シ

はしたあし　形一（あし）甚シ（悪シ）
一中間ニテ「ヲ」ニ劣ル辺ナリ、女ニテアラ信ニケル
オヤ丈ニ故郷ニイトハレメナケレバ心地或ハ「ヲ」ニ「情」
ニ心ヒメナリ、心ヲサナシ出メテ「不法者」「依違」
二取付キ端ナシ、切ナシ、ヒシメナキモノ、人ノ呼ブニ
我ヤトテ差シ出テ「ヲ」ニ物取ラル折ハイヒ、人ノ思ヒ
ヲ、ハシメナリテ「多藉在」

はしたなむ他動
「コヲヒメカナ心ヲ合セテ」ヒシメナメ、ヲヲラ心セ」メ、実様ニ「ヲリ」絶ハド
来ルハ、ヲヲ合セテ」ヒシメナメ絶ツナト、サマ〳〵ニ言ヒケリ」「田殺、嘉殺」
一紛ハシ、ヒヒ、ヒヒ、ヒヒ意カ、或ハ思付無シ、縛ニ言ハ
ヒ呼ブ「髪髪カ」「髪髪」
二ヨロヒトナシ、確カナリト思ヒ得ル、昨日ニ工事ニ出テ奉テザリシ
ヨリ、オボツカナガラヌ絶ノ」文後ニタヒ、オボツカナキ所ニ、説カセ
ナガラ」「不安」

つきつきし
「付付」似合ハシ、似付カハシ、「つきあしノ友」「人ハツキノ悪ク
ソノ方ニツキツキシキハ、ヒヒ、ヒヒ撰ニテ絶ヒバ」ナド言フ友語セ
人ノ物思ツキトミシリ、「言ヒツ」カタラシモノ一人ト言セバ」
人ノ家ニツキツキ物、帝ノアメラシキ、戀艦ナキヤカナル美女
好キハシメモ、「適合」

やむことなし　一「やむ上事」ヒ云カメシ、打捨テ置ヒテ、道ヨリヤムイニ因リ
京（人ヲ云ヒ）
二甚メ常並ナラズ」親ノヤムコトヲ思ヒオキテ給（ラウリ）ヤムコト
ヨリ切ニ隠シ給フキナドハ、
三常並ナラズ貴シ」イヤムゴトナキ際ニアラズガラレテ時
メキ給フアリケリ、

あいだめ　雑別（わきためノ考候）ワカケ、区別、

きすく　気直、こころすぐ、かたくなし（一本強）（生直ノ義カ）
心強クて乱レメシ心ニテモテナシ給ヘリ、人如何ニ取リナシ
待リケレドヤキメテ（リ

ほの　（接頭）ホノ、ホノ、ホノ、（ホノ思ヒ寄ル）ホノ語ラフ）ホノ好リ）ホノ見ル）ホノ聞リ）
ホノ嘆シ

ほのかに（副）　仄側彷彿（お係のかに）約ト云フ）見エテ分明ニテ又狀ニ云語、
ラボボレリカスカニホンノリト、

ほのぼの（副）　甚ダ仄カニ「ホノカニ見ル花ヲ顔」「夜ノホノボノト明ケ」
微明

海人ノ漁リ火、（三）ケラケラト気振ニ示ス「心ニ餘リテホノカニ出デノリシヨシ」
「ホノメカサバヤ思フ心ヲ」　諷示

ほのめく　自動　髪髭、エノカニテラウル、チラチラト見エ、日ホノメリ」光ホノメリ」時鳥ホノカニ
ナキ、チラチラト見エ、聲ニ何方トシ打ホノメキテ参リ来ルトテ、出テ給フ

あかつきまみ（副）（二）メケマケ、俄ニ、倏忽（三）カリソメニ、ツイチヨツトニ、仁和寺ヨリ
京（所在アリニ）

あからさまに（副）（明状ニノ義カ）ラチアケテ、カクスコトナリ、アラハニ、明白ニ、　赤地

いとせ　し、きこえ（形二）（二）オホツカナリ、ユカシ、（三）心晴レデ気ガ塞リ、　幽樹爵

ありおしきこえ（形一）道理ナシ（ニ）ヲ云ヒ、分キヲ無シ（ナトノ意）ワイダメナシ、餘リニ甚シ、
ワリナレヤ痛テモ貴メテモ悲シキカ心ヲイヅケヤラウ方シ」怖ワリナ
リシ給ヒシ所ヲ心セシカメナフ」善キコトニモイフ、コ六年ノ未進ノ物三年ハ
許シテケリ、ワリナキ情ナリ」

いや（副）否ト強ニ云フ、
いや（名）欲ス、イヤ恩ノ、イヤ諾ヒ
いや感）（いハ発語）数馬歎ク声。ヤ。ヱハーハヤ。　いや（接頭）弥イヨイヨト最モ、イヤ遠シ
イヤ光ニ

こだうし　穀類ヲ炊リテ碾キ砕キテ粉トセンモノ米ノコガシ変ノコガシ　麩、香煎ノ一名、

あさひこ　日ノ子　あま　天ノ子　たまあひこ　朝ノ子　ぬばたま　夜ノ子
あたらぶる　月ノ子　あら　星ノ子　たらさご　山ノ子　あまさぐり　海ノ子

そまのうら、 林なり
ゑゝつゝら 海なり
さされいし イサゴなり
をきそれ 海汲なり
こゆるき 磯なり
いさとらめ 嬉なり
林のゝや キサキ
めさし 童なり
うるる 日
川つらみ セタなり
ミづくき 草なり
玉のいづき 硯なり
あまそそぎ 方二ノ雨なり
あまのもよひ 雲ハ立ツなり
おろゝし 螢なり
もひ 氷なり
たらひ ツラヽなり
ちやたつ 川なり

みあらの、御殿なり
たらどの二階なり
このはな、梅なり
もろかづら、葵なり
そでふる、舞なり
ならさかすゝ、酒なり
くやとり、舟なり
ちたれ、雲なり
わのけ、ケブリ
とこよの物、橘なり
むぐらゑ、柳なり
○（ゆふつけ うけ ちたとり）三ツトモニハトリ
わや。わよ。宿り木
かづち、ホヲヅキ
はらゝ、ワラモシ
あまのえ、衣なり
をとこるも、舞衣なり
つるぎゝ、衣、すべさきぬ之

きゞす、雉子なり　おやじ 同
ちぎり、猪ノ二コなり　へみり 陽
ましら 猿なり　みくわし 和美 和細
あらめ 鵜なり　つる 称連嶺
ちむら キリギリス　さしあみ 差並
川きこゑ、蛙なり　刺並
かせさき、鹿なり　神佐備
さゝえふさ ヲクヒスセ　神備
ひりす、山ガラ也　従
いさな、鯨なり
ソそらひ、アフビなり
おまづき、鶉なり　いたち 維立 年立
ころしま、鵬フミ也
はらし祢 橋なり　隨 から
あそひとるさ 氏なり
月人男、ここおも也
川あぐさ、水底ノ草
みしろ、神ノ田也
みてぐら、御幣帛也
鶻鶉

うかみよまみ名「宇迦御魂」うか、食物ノ稲
中中ニ人跡不有者。酒壷ニ成ニ而師鴨。酒ニ染嘗。（食物ノ神、殊ニ稲ノ神、稲荷ノ神）
佛造。真朱不足者。水渟。池田乃阿曽我。鼻上乎穿禮。
まそほ「真赭」まは発語 赭ハ赤ニ同じ 赤き土、又ハ真金吹ク丹生ノ麻曽保ノ色さ
出テ。
阿菁 言ハサリノミ
國蟀毋妻人。苦悉人阿被。安出波之利。伊奈寺思膽。
許良苗佐夜利奴。
伊奈 否他ノ言ヲ肯ハズシテ打消語 イヤ
さ「メガイチガヒ」さ然上ノ語ノ意ヲ受ケテ下ニ移ス語ソノ如リサヤウニ思ヘリ
「さい言ひ」「さい思ひ」さゝき、さゝこ。さ発語名詞動詞等ニ冠シテ意ナキ
発語 常ニ小狭 真等ノ字当ツ 小夜 狭霧 「狭衣」さ渡 さ迷
此崗。草苅小子然苅。有乍。君来座。御馬草為。
多麻河伯爾。佐良須手豆久利。佐良佐良爾。奈仁曽許能児乃。己許太可奈之伎。
手造リ布ノ略 女ノ手織ノ布
「曽許」「イタバク多シ」

信濃通者。伊麻能駅。信濃通可至安補甫。安思布麻之
某年。分部波[illegible]和我世。

[illegible]
陳の的やと影[illegible]
可解[illegible]又ふ(うし如り呼[illegible]こ)連 幸る
え伊行市宮ノ假名此方ハ[illegible]
又名先(善ノ意ニテ茅ノ弟ニ對ス語カ)あに。ふの加みに同し「大え」
「え若」「え媛」又名枝 えだ(同シ伊ノえヲカ花折ラン」松カ枝ノ梅ヲ枝ノ
又(助)得ノ変)又副)(善ノ義ニハアラス)能ク敢(三下ニ反説ノ語ヲ用ヰル)
思ヒカケヌ乙女ノえ得ヲジラナリ」「え行リマシ」「え取リ給ハジ」敢
かくろふ 自動 隠ル ノ逆 本陰ニカクロヒテ、畫モイトカクロ(又狀ニ)「女ノ様ニカクロ(入リ給ノ
かくろし(カハ発語ナリ)黒シトイフ同シ

而子仲麻呂接伊勢筆意倣翰留
可奈我盡筆鄭書畫法北苑不癖生
於市買也得倣王清雅簡者妙
為擅一家之奇術者非伊和誰
仍石上人隆頭巾
雲淡清靜溝澗簡易
水涯磯石畳字九精神仍石

與有渭川千山亮之胸次筆先所
攬寫唯西三等伴海看遊陽外探
宇内之奇觀所都實幸如新余
於海之仗深有感焉　今右山人隆

乙亥秋暁攀仰華嚴　隆

此幅淋漓山水筆横帖

西作天門等不與子與而三絶之蔭世事
掃得自者空　此為山人所自畫作右
此幅中景最出新有味翁素不同無贈之

西加茂神光院　真言宗

月心律師　名閑　大坂人初号吳山森徹山ノ
門ニ入リ僧ノ業ヲ受ケ為信神光院ニ住ス
四十二歳ニシテ師徹山ノ妻ト三ヶ妻ガ同ジ年ニ殁シテ
其ノ墓敬ニ逝世ヲ嘗時二男アリ長覺次郎次
千満吉兄十四歳第七歳吉ニ出家サセ人ヲ驚カセシ
ヨシ兄第所ニ名僧ヨリ兄名覺樹ノ門ニ學ム
愛深律院ノ住職トナリ第名智満ノ学德ハ三高
ノ教授ノ時知ル現ニ神光院ノ住職メリ
一説ニ父吳山ノ死ニ新所ノ家ニ帰リテ陽ヲ隠シテ
正ハト月ノ上ノ吳山ノ月ノ見ル俄ヤニ発心シ
主婦ヲ駆ヲ除ノ出家ニシテ云フ月心ノ名ハ

中ノ世メトニカ
智階和尚氏書ヲ訪ヒ越前谷村著ス
幸ニ之山路絳應ト初春ノ事ニ新春田主任
ト時ニ山路氏ニ新年ノ挨拶ヲ送ル

遥想越山雪惟京城猶未到春梅
那圖萬里同禍色芳信先花地來
昨宿之前一月得越山雪稚樂詩
新稿賀信帝賦一絶 擬漢牧詩序
所帝莫師心三字是竹雪翁筆
而乃玉蕊石南昌化密添梅花祖帝面
也今年以供清覽 東坡云一二百人
學作雪書僧心懷 高吉天寒梨集於梅
新年頃日新詩稿也彷彿春入寒來
丁亥新年照雪稚樂見賜詩喜礪之

蹤亦往所賦贈字句恍惚如夢
韻以論　　陸放翁

此二詩京都隨心院門跡和田知陽老法賜
越前管谷寺三山師往應法老
到處唯思慰旅愁往年憐俗百花時
今向別春回補業傾盃盡不知春鶯移
丁丑之春在吳赴討薩軍之矣大分
縣滯數日偶暇拈筆為作此圖併題一絕之正
酒席上徽畫為作此圖併題一絕之正
古雨遠

春雨

春日往來人送迎垂楊何必在陰晴
折花向晨雲雨一枝花情
成春光花生蹟梅過眼看一作光花事花別折心落
春作催　春作檐
春簾雨窗

納涼

扇能衣唐家素彈永日搖如風
納涼但向沈川去石瀨始知水性
題嘉士訓梧銅人畫　賴醇十外
人間田舍事每苦百歲身空憂亡不幸長生
嘉子訓摩挲銅狄筏風　春水之人秋去　紡右傳悔
華堂只在南湖上山色水光相共清鴻鳥
不來魚不起落花風暖讀書聲
三樹詞人醉題　近作

湘髮誰樓樓月明 七星識指湘龍蘇梅花
淡畫島川水兩岸春風柳色鶯 青霞帖

題畫

幕襟春風動碧綠展翁鶯我梦中看分明
昨夜㟧咏雨一丁香魚上釣灘 詩家
咏三餘之之一係夢
驟起簾風吹燕斜 轉思歸客滯天涯分明
夢見青驄馬繫在柳陰蘇小家 半松陶
曉。新陽竹枝
每逢芳草情懷 卅里新川月夜時 鄭淮
鄉雨淋無風絕蜀郎一夜春椿影

風雷一聲掀乾坤。今古蒼茫悲劇可怜
秋雨梅窗夜。蘭亂唯去流義元。
時生雲亂。主人稱義元亂。敢及。移居無興
衣房月又飲驛。扮斟自此歌酬篝。
明朝一分花底滿。陳隔唯是杜牧舟。 鄭淮醉人
煙籠寒水月籠沙。夜泊秦淮近酒家。
小女不知亡國恨。隔江猶唱後庭花。
筆耕二十六年過。醉把新詩擊壤歌。但道
吾生無帝力。一盃到手也恩波。
醉時席勢叢衣承青錄 三樹醉
奔川一道碧刀孔出崖幔千家沉海深紅袖傷舟何處
去喜雲雲就月上長桅 一桅青葱小船檣也舟上帆竿
酒田港 鄭淮樹醉

酒兵筆陣吉田羣　鐵鴨添香笑煙蓋
詩自成時結客言　醉將酣處賦肺論文
一簑夜雨滄千聲色　滿目秋黃茅屋空
餘興沃棠不盡月　使云完影滅三分
秋田青嶺亨詩會　鳥甲淫
飽看林花雲樣開　掩門堤首唐書誰無端移栽
青如深句引詩人又把杯　扇子家義
夏初遊華頂山
柳梢眉月初微澹　江入渠流曲之通八百方樓
涼似水撥簾七十二橋風
新潟竹枝

書畫一法

古人云畫無筆跡如書家之飛鋒、
元趙孟頫自題已畫云石如飛白木如
籀竹應須八法圓飯而云畫竹之法
籀如篆枝如竹葉如真節如隸而謂
書是一法亦云平　宋饒自然
書法要法遒入畫中者唯榜喜先生
所作竹為然全花之時一枝用筆自熟
墨濃處間分枝布葉如江吳刀鐵劍
也自題云詞人每稱雲州如絮雨似絲雲州如絮年
幾雨堂絲年哉可見物之相似者皆非真也全

要此竹以為蓋以紙為蓋以為抑則非抑柔以
不似者真則我乃得其真真試問面前竹
竹不能答倘使竹有知我我將
以此答之其言曰可謂畫竹三昧矣
倪迂云世人視以為麻為蕉為竹先生蓋似祖其意竹田山中人鏡古雜
詩百篇の筍の問答を為せるあの氣品の高
いを讀て一言を深く感ずるやう書いた
のを拭て見るとの言のやうで言ふ事の拙て
書ふ言のとみ拙劣なるを
いまこゝの形象を表出する術の拙劣
まて佐ふ
上司小部

板橋作字如寫生家作畫如
板橋寫生家如作字
表微顯仙鄭板橋其人非佛而非妖
晚年痩鶴寒山石別闢一路出塵一條
心錄太史詩可謂板橋畫蘇橋寫生
書極瘦硬之致方寸自在六合幸
（善林今話）
朱白民小傳善作枝幹瘦勁葉尖微帶鉤斫俱用濃墨
不襲貼最為近古
文命時要素用素乳墨運以中鋒發勁拔俗表意疎朗
不具形貌近世專典能者
雲時江世鷹決善畫云表意集情集

村田眠龍(ミンリウ)號北武夏長崎人鑄法學質素者一家
天保八年十二月廿四日殁年七十八葬于本郷追分妙信寺
辭世歌アリ 極樂も地獄もまゝよ死出の旅こゝろのまゝに
兵衛(ナヱモン)與次ト稱ス一名 門人渡雲二代龍眠 貞寄 佛像蓄若干氏
近世鑄金家竜ノ 龍眠孫 號保之名伝 號金峯佛像 栗眠作品若干 近長
名人ト云フ 傳德 陽春伝 中野某 昭和年 發見伝
竜サ號ヲ云フ

四内親王伯父君
侍石園基資伯逝 従二位勲四等 元宮内省御用掛
昭和三年一月六日逝去享寿七十二
伯ハ典侍園祥子刀自ノ令兄ニ現ニ
竹田宮妃昌子内親王 朝香宮妃允子内親王
北白川宮妃房子内親王 東久邇宮妃聰子内親王
四殿下ノ御伯父ニ當ラセラル 園祥子刀自ハ明治天皇
大帝御在世當時典侍トシテ勤仕シ現存セラル

[illegible]
お(咄)向ニお茶の具粗末の器あれ共
茶釜一箇 茶具一切入
設けたりしが粗品ハ只ならぬ大きさや且用ゆ
東都第一の茶器子 村田氏より贈りし品なる
茶も一流の法にて茶入の中ニ入れ申し候 由
一時アと申して京流あれとも京は京都
西陣清水焼下美濃尾張悪しき品とも申し
候ひ、彼の御浴室ニ茶家にハ乏しき茶
あるべし 夫より伊勢屋の鍬を 紀州の茶
此茶器を此処ニ置きし 撫子下、茶の入様の此
す焼かれし 是ぞ湯を沸かして御茶とし

卿田敷忠眠号北玉斐長晴人錄法學貞素者為一家
元保元年十月廿三日歿年七十八家代々藤原氏法名妙信寺
極樂寺殿數もの〻ゝ
内人源兵衛二代城主 紀氏
貞業 俗名 信德 ゝと 京西山京眠 ゝ

め陽気の間より一条出る時今一つの言ひしようを
ころむけて上に巻きさし候はゞ置きて
五様にあけ候へは真の葉に嫩気浅成し
いや此茅手御代り初下、葉ハ是にて二度
目ほとあるべく候へし 茶味をうち出て田舎漬
や不知今回の此清味は誠に惜しきことの事
ならや 是ほど修を静めたにあんだん於仕
公覚閑上愚情や 籾葉秋味禅画に
ろやし 遣しや
元吉 相英 襄

信濃屋 遣 松本元吉

一 翁今般達遠州に於て 赤坂御遊中に於て 時に御前
衣方へ向御座ある今の森出宿へ出 [illegible]
残の出屋 駒井様方にて 山岸巡見には屋敷
良作にや中途経行いたし 元国産
出方時殿下 漢家に而 第一流に仁に此官館
此仁のみ中れ 大西様有て [illegible] 山水等
稽人書客て [illegible] を繪と 標出 [illegible] 借
近此の人 今年 [illegible] 不備 [illegible] 報者
十月 [illegible]
山口島 壮次郎様
[illegible]
京都 下新に 標 [illegible] 御通有之 [illegible]
松下へ [illegible]

議会散会後歳晩節唯
有梅花一輪共伴
園東

元田氏

未接芳眉候得共小菅政□□□之事従上而
承り候愈御清穆奉恭賀候
拙者今般於國御奉行被仰付様候
通り海地巡見ニ参り候処彼保養候ニ付
何卒御保堂ニ而滞留ニ御座候
新作御嘱之義ニ而ハ候得共其地御留守ニ御他出
も出来申候節御在中ニ参り何分右様子取計ニ
幸便ニ付拙者平穏より書簡ル多と□□申し
春江氏へ御相談之上御聞置被下度候
時気御自愛専一ニ存候頓首
千年

良作 拝

江藤様
侍史

未拙葉居之年小石川通于谷…

此之年禎藤茶祥てき之来参加候

於当方取所國師奉行様御同役様迄

道沿海地巡見之節御伊藤飛驒守へも

申しも餘所之堂之外ニ而た於御上之存ニ候

榕堂尾臺良作墓誌

君諱逸、字士超、通称元逸、本姓小杉氏、榕堂、敲雲
皆其號。越後魚沼郡中條邨人。家世業医。嗣尾臺
浅嶽。経学従綾瀬。講究経史。工藤士禮、毛穎御林學
梁、芳世青等。所親善羽倉簡堂、安井息軒、工藤
天山、鹽谷宕陰、皆一代名流。明治庚午冬十二月晦日
殁、享年七十有二、葬于東京谷中観音寺。

金陵遺稿

懐出經宮能孫逸泰芳年[illegible]

穣郷對酒人教杯村酒

宗傾府一醉陶然[illegible]

自来

議令教令隠窓眼前唯

有梅花一轉知伴

園東

元田氏

遠教[illegible]陰[illegible]先生[illegible]
因[illegible]先生近況靜養[illegible]
欣喜之至[illegible]
三[illegible]
什要[illegible]
[illegible]

丁未[illegible]

[illegible]山老先生[illegible]

[illegible]

良嶽往来[illegible]
[illegible]
湖水[illegible]山[illegible]
妙風[illegible]

[illegible]山北[illegible]山[illegible]

[illegible]
[illegible]
東塔 止観院[illegible]
西塔 [illegible]
横川 楞厳院[illegible]

祇園社牛頭天王[illegible]

八坂ノ塔ノ坂ハ其中ニ八坂ノ坂
祇園坂　長楽寺坂　百河原坂　清水坂　清水寺坂　三年坂　等ヲ云フ
雲山坂　山井坂
清水寺の清閑の方丈の佛殿建立の時ハ中堂を造りたる
ゆゑ書院ハ東坂ハ陽禅寺ハ西坂ハ陽禅寺ハ石門ヲ開キ屋根瓦ハ
四方水の流レ流レ流レ流レ流レ流レ流レ流レ流レ流レ流レ流レ
額標牌ハ
大仏師を頼朝卿ハ
嘉の字の字ハ
西
嘉の字のまゝ
能女　雅ヲ菊
人のまゝ
ハ

○○
石山の東又京竹田許由ハ清水形迹嵯峨清涼描き志作
麓也　外面森川氏黄紙ハ竹石園詩

清涼伝説出石新撰　長楽寺伝説出石新撰
長楽寺自抱高心　清園戴園并題　竹石園
清涼園住武州　新堀村南川寺常好詩屋奥物茂作
文義
森ヲ
ヲ花ヤ
人のまゝ
許ハ清百仲宮洞宮森川氏号五老井号菊阿仲
文称老書師　江州彦城ノ武士也　文蕉門ノ俳士風俳書
数編作者　北井波村号九華　彦城人　北山毛詩号
大雅堂　江州彦城武士也　同時ノ人　皆典ノ絵五老井
世ヲ
雅堂

此御好丹青真迹跡絵〻伝人百元文元年歳
九十九
乘誉の女聚朝御室御乾後為尼法名如実称二位
尼鎮倉寿福寺新尊像明人陳和卿作年世久遠頗破壊
元禄中始修補之拓而看之中有観音像廿許作毎帰書日
蓋日課所畫也特郭常信定為平氏畫詳大德寺天倫和尚
所記　筆法婉暢与書跡同轍特氏之鑒為不誤
佐脇嵩之名道賢字子安称甚蔵始号菜一称一瓢之門
也明和七年七月没歳六十古
佐脇嵩谷名一雄号庸龍齋江戸人也入于嵩之門継其
統家高階氏故世人呼高嵩谷文化元年冬月廿三日歳
七十五

白井高謹名太青初号三林德賀加人金澤
侯医師也後亡命住于京都嘗医于乾山又
住于光琳而受其所用方祝伴亮之喜平
立林立德号何帰金澤侯医員後遂行
住江戸更姓名称白井宗謙畫学于乾
山之門
真藝号學更真能之子也兼法仏学能稍有氣韻萬壽寺
桂話和尚曰能之子藝之子相継精妙皆傳于世三世風流延月
継者寧矣
我法仏門出家にて
講師の意心也月と云やと忘ひれ其角
律師の孫松利をしてを法まる名
そのら
三井高光
高光

[illegible]成作業未詳姓氏若副集云宇治頼通公令為成畫家
[illegible]不日而畢之云々光清近二十等院鳳凰堂壁畫係為成筆蹟
法性大士解脫珠光一華五葉遍四海芳
越林多貴 [illegible]
夜叉葉隨毫長纖枝逐意成 清水寺
赤井得水能書善畫竹
湘水神人孫玉姿淑風 搖戰似求行舞
傍隨洗粧美 俗媚未[illegible]
書拙老人[illegible]
韋岳諱智 法嗣黄蘗衍梧和尚能畫墨竹畫
養拙其号也

[illegible]
唐[illegible]
鐵崖[illegible]史
崖公[illegible]事切名通入理性酷鷺島盟
拙 [illegible]見氏豪傑士一貫如洗愛心清
高五年一月試筆 鐵齋[illegible]史時年
[illegible]
五百[illegible]
百丈[illegible]帰 [illegible]
鐵[illegible]
[illegible]
[illegible]
寛永二年五月十五日澤庵和尚
僧澤庵諱宗彭号冥之又称東海暮翁但州人一凍
紹滴法嗣寛永中寂

[illegible]

詠歌 一休 狂画 真角

講堂の庭に出るなりとて

律師 [illegible] 刺をしてけるを見て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

織田右府

中清

靡執り[illegible]景仕へし[illegible]

[illegible]異国人[illegible]

[illegible]

皇雲四面峰千巻緑松[illegible]頭水

一湾 [illegible]

[illegible]

異[illegible]恨[illegible]

[illegible]

[illegible]

泗泗 [illegible]

泗泗 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

夫往夏來日霞陵清麗谷前
仰觀光氣白疑曝布天山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

勢吉子孫氣象成仁義輝切名
湊川高古流寿恩 楠木結忠傳高古
東湖人見氏家 楠氏結
道設 有竹 卜出 道生 仕水府
翁孔留没豊保死 湊川送跡水連天
人生有限名無 楠氏結忠百古傳
孤抛時勢深埋塵 万物中来有伝伸
結繁陶漢集詩樂 弄仍人年我何人

浮船公詩

人の為にうちうみ[illegible]
[illegible]。つきづきしからぬ。[illegible]
[illegible]。
[illegible]
[illegible]。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

不意
ゆくらあく。吾止事、常立ナテズ、やくとてあきあたり。ぐどうり。
とたりをとるふどは。たりつもるも。浪体たち（取り体端さし（問ヒカルル）
いろの黄しるむを。ゆるるむ人ぞ。
ゆくとまり。ほとくつけて。ぞむ。
ゆくとみ。ぐどくと。だぐり（不安（ハツキリセヌ））つる。ぞくは。
むをよき。ぐらじの心おきてと。ぐどく。

萩 音秋 撫子 花史 天竺花 苦薏 ぎちし あむ。
蕭 音宵 鹿鳴草 和名抄 芳宣草 紫蕚 ぎおも 玉簪花
和名波木。凡宣取ヲ若ニ開戯草ニ者高ク 董若高ク 撫牛 ぜんしゃうこう 児、蠶 かうかう 加州ニ之三種

と変廣次ゆ山と景波ゆ
宮ゆ言ゆ野ゆ一保 悠 ゆ花 ゆ 花 ゆ
双方と事状 岡ゆ
地、高武九 ゆ 高 ゆ 高 ゆ
少ゆ存ゆ一月 迄
保 高 ゆ 来 議 ゆ
高 武 九 ゆ 海 ゆ 舟 ゆ 海 化 ゆ
信ゆ 本 ゆ 本 ゆ 見 ゆ 史 ゆ 仁 ゆ
以 及 ゆ ゆ ゆ 原 ゆ 和 考 ゆ ゆ ゆ
ゆ ゆ ゆ ゆ 方 ゆ ゆ ゆ ゆ

時雨のかすかなる五月雨に積こそ雲の下枝
まさるなれ

清道

雨三日

鳥羽中将殿作

[illegible]
[illegible]
[illegible]

或時の酒を作るのすきむらけのが儀まよりて
てもはなはだ多し又接法のうつくしきたぬ
たるふる時のようすあるべき事しなのうち
はなはだ接木の極所いとしきはしきは
ものにて所々のものあるべきもの
和は高さあるべきもの五体のうつくしき
うえ成つる移陽

帰葉中飲食

宮の長物すきまきの物くるべ屋に稲を米に並接
家えれは人の意義周深の式の新葉を言葉
乃物高き根山は著乃ものいのでたし
事かこじ
一宮たこ清に接くこうして薬まき深に
うむ者たり食べは小瓶の表梅を稱
したむ超ちるべし和稱のたち樹椎
稱のちるある稱椰のちるしき竹はね
しうき接法高接根より根市松表
の鄙しきみるもて或い表玉稱言接石
の書き接法仕稱乃石のいやるおき磯石
生石山石乃上於乃言まこてふなぞ

[illegible]

高倉悦樂の中し

庵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

之神乃所稜威を恐美而幸福
我三尊願突奉
[illegible]
[illegible]
隨 ガウ 一類ノ二六ヶ所ニ同シ二ツ間ニ移ル言葉ヲ云フモノ
（從也）
諸 ウベ 肯フ云フイフ語ヲ云フサモアルベシ云フ語
於也自 ヤジ 同ヨシ
敷那里隅 神河良 從 伊立 維立 社化備 誌
和細 和美 都留神 達嶺 刺 無 [illegible]
小田ヶ原 [illegible]

死生元有命
天此是古人語 吾々知
謬傳聽所好 短命徳孩
却去年新物 [illegible] 財宝堆
慢漫世紛紛 小田ヶ原 井上 [illegible]
背懸答著意悠々 暮来沽醪日々秋
一縷生涯煙水浄 復吟夕照向壚頭
題漁老圖 葵亭

晚来散策不覺芳叢
滿〻斜陽細〻風
起六滿衣踏碎影
分明人立藤花中
丁亥首夏　衛鑄生

[illegible]
素咄奇〻高量不是人間物
輸与眉山仙子知
淄川高東嶼詩　梅花
此詩秋帆老人墨梅高意合裝
稿之無人在山色東看家　梅花
碧谿春蹄　時在己亥仲春　錢翁
梅花書屋　嘯元人面法　雨亭
[illegible]

縞 古考切音杲、練也、白也、白色絹色又繒之精白者曰縞、亦作𦃃衣其巾傳皆色男服又素也

州陸氏曰縞素

又居号切音誥、義同、又白繰、白帛、已練研者曰縞

袂 弭弊切、音穢、袖也 釋名袂、制手開也 開張之以受臂屈伸也 禮記以袂拘而不迫 又古穴切

同 禱 市袖也

衣

一雨朝来生晝陰
憐小叔新長竹
近窓聲遍清地月
涼似雪和尾新收月
桃花流水鱖魚肥
玉雪迂叟

閑戸着書文歳月
稚松皆作老龍鱗 小石

縞 古考切音槁練也白也白色鮮色又繒之精白者曰縞詩曰縞衣
綦巾傳衣白色男服又素也前漢曰兵皆縞衣又居号切音誥
義同又白縑一曰帛已練研者曰縞 袂 彌弊切音機袖也釈名袂
臂屈伸也礼記以袂拘而退又古穴切同 繡 制手也制手閑也閑張之以受

[illegible]

[illegible]

[illegible]

尋深類父老跡

白市東北町二十餘町有清原濱者
父母毛陸奥補佐藤吉右衛六月廿
七日与二三子緣殺生（隔也）被蒙罪而打
急見一林緑森翁樹前年山伐二三本
取造二丈巾巡二十許步界至不
知明性有一櫛樹大十五圍青枝茂
圍吉右衛門之所植二十歩程宜手下
殆千年物祈者先君那要印是
白氏玉補佐翁親戚入而打之濱因

載一隻以紀之云

深谷有玉井日蓮寺

[illegible]人来訪用孤[illegible]毛筆一幅[illegible]

[illegible]

享保六年 春世衆 東海生 [illegible]

[illegible]城年人[illegible]好古

[illegible]刻就[illegible]田[illegible]得[illegible]法[illegible]巧鑄

印 錫可 柳鉦

文曰 人外之游 尼橋 邦彦

穂積蒙鑄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鐵山產[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一服のうれしさあれば清水にて茶を煮し
為りけり
夢野庵新の詩鐵崖しるす
此賛いかに取筆ヲ写生ヲ題ス

擇好亦自為天京園亭仿須磨城陰近り宮殿
通京隋寶蓮或隠沈若也
やみそ人こゝ京日社の森ハ
蓮華
那与あて人と世をむすぶ
青雨を大和絵庭園の色の
青花
家孤高紫乃花陽紫楽来瑞天鞍敷新是栗
仁市忍寺致力法也廣沙孔雀廣儀
題二つ歌 月日桜 玉敷 屋戸 開 春陸
新

り描り像ら賛は折
おの神をひさとあて
七日の色を日は一年ゆふ
天石ふりさを陸ら下桜の色の文新きの星
星野春敬

西王牡丹徒自清幸如名花徐生
南日求仙不肯似禅市是世尊 [illegible]

[illegible]

[illegible]

○ヤ尾、篠帆、篠ノ重テル意ヲ船ニ用ヒテイフト云、或云ノ長帆ニテ前ニ出シレバイフト云

○ヤ尾、八百、一百ノ八ツ合タル数八百二数ノ甚ダ多キ（弥百ノ義）「八百萬」

○だて 接尾 立 他語ト熟シテ名詞トナリ其風ル意ヲイフ語「カレコダテ」「ヤマビダテ」「真主ダテ」「男ダテ」

○たて 接尾 立 動詞ト熟シテ名詞トナリ為テ新ル者ヲイフ 詩「煮ダテ」「炊キダテ」「切リダテ」「型レメテ」

○たて 名 立 吉ト押シ立ツル趣意 ○たて 名 幕 席ニテ作ル儀ノ如キモノ、茶錦ナド納ニ用ヒル

天武天皇四年詔曰自今以後莫食牛馬犬猴雞之類者
衆之以外不在禁制而後諸獸肉不得食且以為穢神社最忌
之今和肉者魚鳥而已魚肉薄切曰膩（膩同）
南蛮漬法。醋酒等分一沸入燒塩少許盛甕以鮮魚肉膩入其
中経一昼夜味極美復次加入亦佳雖極暑五七日不爛以代鱠
鮮良方也（魚醢一部未須）

肴 音爻、殽同、礼曰注云肉帯骨曰肴、
桜肴 訓たかな 酒名也凡吃酒時間次啖之以為酒媒也

鮓 音米、鮨音而、鱁音移、本草凡魚皆冬月孕子至春末夏初則
於端水草際生子有牡魚随之洒尿白蓋其子数日即化出
謂之魚苗最易長大

鱰 俗名比加比、體長七八寸ニ達スル淡水魚ニシテ（琵琶湖ノ殆ト特産ナリ）背
側ハ蒼青色ニシテ黒色ノ斑ヲ有シ腹部ハ白リ而シテ各鰭ハ淡黄色
ナリ性活潑ニシテ清キ急流ヲ好ム肉ノ味淡白ニシテ佳ナリ

以和奈（名岩魚）谷川ノ岩穴ニ棲ム魚ヘ形鱒ニ似テ小サク白シ

鰍 ヤマメ 土佐州海魚（言海）

鰐 紀州深山渓流激湍之間住形似鱧色黄有
黒斑

雕 美美

雕 美美 異ニ訓阿豆毛乃王 逸曰有菜曰美無菜曰雕師古曰美美與雕烹煮異齊調和不同非関有菜無菜也徐氏云美美以為主雕以肉為主（孫毛）以魚肉諸物和美調之骨董美美

鵬 和名以利毛乃 少汁雕也

魚醢 内將醬、魚將醬、皆呼為醢和名之ニ毛氏礼記注云凡作醢者必先時乾其肉壁之雜以米麹及塩以美酒塗置甕中百日即成

鮆 俗云之保加良、唐韵云鹽藏魚腸也、

鯊 音謝醃腌鮆並同塩漬魚也俗云之保毛乃

鯛 鮭 音奇、養魚音想、乾魚漢書師古注曰有肯塩而乾魚曰鮞

鮞 音恠、俗云日左之、字書云以竹貫魚為乾也、

黄類魚 美濃萡曰和名多ゝ良鮭

鱵 落合切音臘、淹魚也 鮭 音皇、年魚（呉難曰名）和名佐介 高錫食経云鮭其子似萬赤光春生年中死故又名年魚鮭鮭本字ナリ魚類也正字未詳

結 空緒切音骨、蘭深、結束也并中結結ニケイト

紊 息據切音稽、緻綿也一曰繰餘為紊、不繰為綿、徐曰稽者曰綿蒲内衣護蹈者与其外膜偪雑為之曰紊、急就篇注漬蒲辟手之稍者曰緜粗者曰紊、今謂新者為緜故者曰紊、前漢紊三斤注師古曰紊綿也又喜如紊頭上中也

紫 力垂切音墨、諸也、十黍之重也

奴糸 女居切音袖、紫〻緇也一曰叔紊デ学

俞 音決、空中木為舟也、又然也疏云然應也圭注曰禹曰俞、都帝慎乃在位帝曰俞、礼記曰男唯女俞、注皆應詞ニツヽ又答也○唯俞二字共ニアツトヨリアルトヽ云フ唯俞ハソノ直ニアツトエトフル音也應字共ニ答ヘルヽ女ノコトヲ云フ唯ハ男ノ音ニツヨキトヤハテカナルトナリ

淘 コメヒヤリ

顯 二字古文演 光 光本字然火在人上明之意也俗作光 光 古文光 光 正本字

肥 失倫切音詢、面頰也、又鳥藏也、又厚也、又愆也、又愆誠貞礼記
肥〻其仁、註肥〻漢如海面肥〻之肥肥愆誠貞
ヲモテトリヽキニ 又子罪切音摧、義同又与豚同又音純、膳之全物
濛 音蒙、微雨也又濛鴻 アツシ、マコト、イリヽ、マツメシ、 ユサメ、ソラシ
濠 音 水名、城下池也通作壕 ホリ
濟 仁角切音從 濟濟水小流 又游魚出沒之貌 又游魚出沒之貌 又游魚出沒之貌

混耶沌耶。象天地先。窅乎冥乎
稟生自然。無見無聞。為爾無識。
匪剛匪強。守爾柔弱。無尾也則
不知所將。無顛也則不知所迎。
有殼有匡者吾知其為介。有髻有鬚者
吾知其為魚。非魚介。果此何物歟。
吾私知。非因大常之醉身。則李青蓮
一醉神也。

余亦酡醺空瓢為枕睡

題海參 玄宗未古

鵬齋書

東坡居士

跋黃可行竹

行林。生于陵陽守居之北崖。蓋故竹也。其一束
脫籜者蝎所傷。生于困于嵌嵌。是以若此狀也。
吾亡友文與可。者陵陽守見而异之。以畫寫
其形。余得其摹。以貴遺玉冊宮祈永使刻之
石。以者好事者。勤學騁目詭特之觀。且以想見
亡友之風節。其屈而不撓者蓋如此云。(蘇黃題跋)

宋文同字與可石室湖洲人善畫竹

又素竹文

异音怪已也。迟。發端也。又音異也。又与異通、何以异哉、

匏竹 ヒサヒ 牧童樵夫陂陀 險阻

記承天寺夜游

元豐六年十月十日夜。解衣欲睡。月色入戶。欣然起行。念無與樂者。遂至承天寺尋張懷民。懷民亦未寢。相與步于中庭。庭下如積水空明。水中藻荇交橫。蓋竹柏影也。何夜無月。何處無竹柏。但少閒人如吾兩人者耳。（蘇黃題跋）

海波寄愛為桑田。枯榮遞代急於箭。

東長吉詩句

元四大家

倪瓚字元鎮。豪財好學。嘗築清閟閣。蓄古書畫。於中人罕跡其所。尋高深山。作石攻詞。務造極古意。素有潔癖。人呼倪迂。又嘗名巨東海瓚。或曰顛瓚。變姓名曰奚古朗。或曰玄朗。別號五湖。荊蠻民。淨名居士。弟陽館主。蕭閑仙卿。雲林子。多用以題詩畫故尤著。

黃公望字子久。其父九十始得之。曰黃公望。子久吳興而名字焉。號一峰。又號大癡道人。知聰敏。應神童科。經史九流。無不通曉。閒三教堂於蘇之文德橋。後隱富春。師董源。巨然。筆法自成一家。

吳鎮字仲圭。號梅華道人。工詞翰。尤長於詩。品不下許道寧。文與可。嘗自寫其竹。自題其畫。有勢而能奪。唯以佳

帝業授之他然作故仲素於結素畫世絕少
玉蒙宮妝明弓黃鶴山樵趙松雪之外孫也主好
畫然不求妍於時惟假筆意以寫天機之妙
又山水師巨然又以畫深見維為宗故縱逸多姿
信之出文敏之格外若使叔明壽門師文敏未必
為文敏所掩也

宮屋賠潘仁仲醫師 侯撰 度年華

屋角東風多居花小軒容膝度年華
金梭躍水池魚戲彩鳳棲林閣竹斜
鑾之清陪霜玉膚黃小白鷺岸鳥紗
于今不二韓康價市上懸壺來延請

陸寬夫作 寒東陽題詩云江南使郎渡於竹
穎作城東玉河曲近來寒作浮蒙法世累深
法刻市玉

秋雁山人章品石暢法墨少水空磬秀閣中間
拂石亭花佛置得宜幽幽上春題句 按秋雁
山人山水罕見巨幅尤不易得也

靖江生氏花石西淺絳少古本樓桓石骨
峻峭中拘布以雲景尤覺居奔歡遠於高
宋元神境

淮上邊頤公書氏蘆雁 本最夥維揚王氏花直
暢有潑墨淋漓處翔步動之趣
顧媚字眉生又號拙波工墨蘭獨出己意不襲衣
前人法有見此石墨蘭二方雅秀無比

明張復初名元春號雲石梁溪人畫法董巨大上擬
宋州謂吳中丹青一派所見者過元者自荊溪
以至倪黃者所不有而能自成一家邊氏花橫闊
大幅山水樹石蒼老氣魄沉厚筆法全仿河陽
高遠字兩表蔚然三昧山水靜遠深遠等在
俗塵蓋學南宗法得自家傳者
顧雲臣見龍眠廬時吉山東貨郎圖人物精工
鬚眉活現設色雖雅有古趣非名手不能到
此

吳賓直幅青綠天台采藥圖樓閣界畫整
齊樹石蒼勁甚色澤之鮮明士女之雅秀
誠為妙品

白氏米鹽小幅墨竹枝幹瘦勁葉尖微帶
鉤斫俱用濃墨不加襯點最為近古
文命時南蘭瘦素乾墨運以中鋒秀勁拔
俗未惡跡朗別具神韻款近世名畫作者
沈熙遠宗蕙直幅淺絳山水筆意蒼潤氣
暈駢宕酷似山樵蓋有芥舟學而編
張二水瑞圖長幅山水墨筆潤澤筆勢
飛翻樹石盡深淺濃有致具見古家風格
雪時江世膺淺絳雪景云山水筆情高逸氣款
出間既龍時史近習
莊義門存又號耘春外史大幅點梗海棠樹幹老潔
不用枝葉挾襯天色色嫣紅淺雅有法意有青森
白陽之間

唐子畏寅作本大幅山水巒頭擡皺明麥虎
側古梅一株筆力蒼勁平坡上老叟拄藤坐童
子持杖侍立鬚眉衣褶高古下臨流泉細草
畧用雙鉤幀上題句云楊花罪遍向南枝拖
藤法有秉歛去遲試問雲消春日落先生吟
就幾聯詩數字句秀似學古松雪按方如山水人
物皆妙雖得劉松年雲林古之皴法而筆
姿秀雅過之

黃愼濟色山水相石蒼老自成一家按瓔瓏子早
年筆法工緻後改寫意云愛看古奇
破苔痕慣寫蒼崖老樹根畫到精神飄沒
處重無真相存真魂

趙上人墨菊劉山松畫花手雲云露香秋色淺深中
青黃黃花自一叢最憶南園微雨後短籬籟扶
疎看西蜀

石濤山人畫以氣勝故用筆縱橫排奡脫胎
畫家窠臼自有獨得本明眼自能別眉目

元鎮畫如天驥行空大樂奏如神龍入海
世以倪黃並稱為元四大家洶空前絕後
其

子久神明於北苑而以變化出之水流雲行磊落
寬舒等圖俱能靜軸
傳神法各有筆意是畫
筆下有何妙思何妙
之此即所謂天際真人相心也

夜蘭用側葉夜竹用於葉古法也主客論
垂竹葉瘦而葉肥倍饒風韻學者多宗之
夏文彥畫分神妙能三品說最精確後人
立異務奇更增品目於神品之上又謂二者
未易輕論不如虛堂氏畫逸於三品之論
爲允當也
宋人李昭玄墨竹自題云竹以蕭疎有餘平心畫
墨者巧亦劉奇之論也
祕笈稱元重承率宋法稍加嚴整雖伸圭
子久叔明猶未脫繼禮習氣集稱雲林老滄
天然按元四家各有擅勝愛若雲林者未
擬後一人而已

安諸院殿 正珊道怒大居士
天正十四年九月廿二日討死
五十歲道壽禪
佐々木助四郎
加治安藝守廣綱 一男
新發田城主尾張守長敦無子而
卒 二男治長 嗣初居五十公羅
城稱源太
○前因州大守一聲道可大居士 神勝寺龍洞和尚所謂

寛延二乙巳年十月 福勝寺記之因れ

善提院殿 享年十八歳

補陀山月吐雲光 機感圓通照十方
弘誓法帆風軟柔 御珠鞦介入悲航
[illegible]
南無[illegible]

慈恩寺[illegible]

善提院殿

雲如[illegible]
何良媒[illegible]
土不識[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]